

令和2年度第1回 庄原市地域公共交通会議 議事録

日 時 令和2年7月20日(月) 午後2時00分～午後4時00分
場 所 庄原市総合体育館 第2会議室
出席委員 加藤博和会長 山根英徳委員 石田光雄委員(代理:石田) 井上清憲委員
岡崎輝子委員 森木萬利委員 深川尚子委員 田村富夫委員 米田正裕委員
瀬尾久明委員 田原尚樹委員 山本直人委員 伊本浩之委員(代理:佐々木)
土井幹雄委員(代理:坂田) 佐々木満委員(代理:平田) 石川芳秀委員(代理:荒木)
後藤茂行委員 山田和孝委員(代理:畠中) 森岡浩委員 尾野素子委員
欠席委員 山本尚委員
委員以外の出席者 呉工業高等専門学校 神田教授 備北交通(株) 稲垣氏
事務局 毛利久子市民生活課長
田辺靖雄市民生活課市民生活係長
傍 聴 3名

1 開 会

本人出席14名、代理出席6名、欠席1名で、本会議の成立を報告
会議の内容は公表となっている。議事録署名は、この後選任される会長と事務局長が行う。

2 資料

- ・ 会議次第
- ・ 庄原市地域公共交通会議委員名簿
- ・ 資料1-1 「庄原市における地域公共交通会議・法定協議会の運営について」
- ・ 資料1-2 「庄原市地域公共交通会議運営要綱」
- ・ 資料2 「庄原市地域公共交通会議 財務規程」
- ・ 資料3 「庄原市生活交通の現状」
- ・ 資料4 「庄原市生活交通ネットワーク再編計画 令和元年度実績」
- ・ 資料5 「地域内フィーダー系統確保維持計画」
- ・ 資料6 「こども乗り放題パスについて」
- ・ 資料7 「庄原市地域公共交通計画(仮称)の策定について」
- ・ 資料8 「庄原市地域公共交通会議 ワーキング会議名簿(案)」
- ・ 資料9 「令和2年度 収支予算(案)」

3 自己紹介

各委員自己紹介

委員以外で、呉高専の神田佑亮教授が出席。議題の地域公共交通計画(仮称)の策定に関わっていた
だき、特にワーキング会議においてアドバイスをもらう。

4 説明

事務局から説明

- (1) 庄原市における地域公共交通会議・法定協議会の運営について 【資料1】
- (2) 公共交通会議財務規程 【資料2】

《質疑・意見交換》

特になし

5 役員選出

事務局提案の承認により選出

会長 加藤委員

監事 田村委員、岡崎委員

会長指名により副会長選出

副会長 山根委員

6 報告事項

事務局から報告

(1) 庄原市の生活交通の現状等 【資料3】

(2) 系統別実績 【資料4】

《質疑・意見交換》

会長：

令和元年度の実績について、広大な庄原の地域内を様々な手段・種別でカバーして運行している実績であるが、補助金等の額が2億5千万前後で推移している実績、それから利用者については減少傾向がみられる。中には増えているところもあるが、全体としてはネットワーク計画に示す基準からは、減ってきているところがある。今年度はさらにコロナの影響もあり、見通しが厳しいかもしれない。何か質問、意見等あるか。

副会長：

報告のあった生活交通の中で、県立広島大学のスクールバスや福祉タクシーは含まれていないという認識でよいか。

事務局：

生活交通には、一般の方が自由に利用できる交通であるということで整理しており、県大のスクールバス、一般の小学校中学校で運行している貸切によるスクールバス、一般のタクシー、福祉のタクシーは含まれていない。

会長：

副会長、備北交通として路線バスの傾向など、お気付きの点があればお願いします。

副会長：

今回の実績後、コロナウイルス感染症の関係で、かなり利用者が減少したが、高速バス以外は回復傾向にある。その中で、直接アンケートを取ったわけではないが、生活交通利用者が逆に増えた部分がある。コロナウイルスの関係で、隣人に乗せてもらっていたことなどが、お互いに遠慮ということで、一般路線バスを利用する方向があるのではないかと推測される。不安を感じられて生活交通バスを離れた利用者もいる反面、そういう形で増えた利用者があるということが傾向として見られる。

会長：

資料3に交通利用者数の一覧がある。市街地循環（ひまわりバス）が平成30年度に比べて落ち込みが非常に大きい。要因を伺いたい。

資料4の個別収支で、備北交通の、上大月から庄原バスセンターの系統で、平日運行回数が0.1と少なく、輸送人員が0で、市負担額は50万円となっている。こういった系統は何か再編する余地や工夫はないものだろうか考える。

そもそもこの会議が生活交通からさらに交通の守備範囲を広げていくということで、自社で運行され

ているJRや備北交通の高速バスや、一般タクシーの輸送人員などの実績も可能な限り提供していただきたい。

事務局：

庄原市街地循環バスの利用者数の減については、把握できていないので次回の宿題にさせていただきたい。また、資料4の輸送人員が非常に少ない路線については、運行系統を見ると、利用者の薄いところを運行するために、系統を分けているものであり、それについては、備北交通とも協議させていただく。

本日は、ネットワーク再編計画の実績報告ということで、計画に掲載の路線を中心に報告をしたが、今後、新たな計画を検討するにあたり、JRや備北交通の高速バス、またタクシーの輸送人数についても、可能な範囲で情報提供を行う。

委員：

会議の進め方について、東城町商工会の会長であるが、商工会の意見となると、案件を持ち帰って、理事と協議する必要がある。本日の交通会議の設置のこれからの方向性は理解するが、具体的な協議事項が提出された場合は、意見を文書で提出することが望ましい。この会議の場で全てを理解し、意見を求められたとしても、それが果たして良いものか悪いものか、地域に役に立つかという判断を迫られたときには、意見しにくい。この交通会議で行う事、ワーキングで行う事など、作業内容を整理して説明いただきたい。初めて出席した立場から意見を言わせていただいた。

会長：

委員のおっしゃるとおりであり、この場ですぐに賛否を表すのは困難かもしれない。会議の運営は丁寧にやりたい。時間的な制約などもあるため、この後の協議事項についても、一つずつ承認をいただくような筋書きになっている。短時間であるが、事務局から丁寧に説明して、できる限り委員に理解してもらって進行する。

事務局：

この交通会議で決定する事項については、法で交通会議の了承を得ることと定められているものについて議題として提出する。全くどこでも協議していないものをこの場に提出するものではない。例えば、赤字路線の廃止などについては、地元としっかり協議し、了解を得たうえで、この会議に諮ることとしている。

今後、新たな計画の審議をいただく。その際に、それぞれ出身の組織で、しっかり意見を集約いただきたいという願いもあるが、組織の中で決定されなくても、それぞれの立場での考えを述べていただくということで反映することができるものについては、この場で意見をお願いしたい。

本日の協議事項は、フィーダー系統確保・維持計画、こども乗り放題パスについて、この2点は、道路運送法の関係でこの会議で承認をいただかなければならない。これらに関しては本日、判断いただけるものと考えている。また、交通計画の策定、ワーキング会議の構成、予算については、この会議の運営に関わるものであるので、本日この会議で意見をいただきたい。ご理解をお願いします。

7 協議事項

(1) 地域内フィーダー系統確保維持計画 【資料5】

《質疑・意見交換》

特になし

《承認》

全員承認

(2) 夏休み子ども乗り放題パスについて 【資料6】

《質疑・意見交換》

会長：

前回に引き続き、小中学生を対象ということであるが、アンケートの中学生の意見の中に、「高校生の利用もあるとさらにいいと思います。」「高校生の乗り放題パスを作ってほしい。」などの意見がある。未来のユーザーを育てるということであるが、今後、高校生にも拡大されてもよいと思う。また、普段使いではない路線にも足を伸ばしてみるようスタンプラリーとか、感想文の募集や、写真コンテストを実施してみるなど、発展的に企画を展開できる可能性がある。

《承認》

全員承認

(3) 庄原市地域公共交通計画（仮称）の策定について 【資料7】

《質疑・意見交換》

委員：

観光に関する交通は新たな計画の中には入っていないのか。ワーキング会議では観光協会が構成員となるようである。住民サービスに関する議論に加えて、本市に来る観光客に対する交通網に関しても議論が必要と考える。同じ1台のバスを使うのに、住民も使うだろうし観光客も使うだろうし、離して考えることはできない。

事務局：

地域旅客運送サービスの中に、観光等の地域間交流という視点も入っている。委員がおっしゃったように、例えばJRで庄原駅、東城駅に到着後の交通をどうするのか。貸切という方法もあるが、市街地循環バスの利用など、そういったところも含めて交通計画を考えていく。そのために、今回、商工関係、観光関係の方々にもお集まりいただいた。

委員：

PTA連合会の副会長ということで、この度参加している。自分の勤務先がスクールバスや地域巡回バスを運行している。大変興味を持ち参加している。年間又は、数年単位での日程を示していただきたい。そうすると取り組むことのイメージが浮かびやすい。

ワーキング会議について、議題内容は、毎年参加されている主要な方々で決められて進められていくのか、この会議で議題にあげたものをワーキング会議にかけていくのか、流れがわかりづらい。地域の声や交通事業者に関わる者として、様々な意見をもって参加させていただいている。どこで、どう発信してよいのか、イメージがつかめていない。

事務局：

地域公共交通計画について、各路線や地域ごとに具体的な交通に関する議論は難しいと考える。基本的な考え方など、庄原市の方向性などをまとめる形になるかと思う。具体的な部分については、それらの議論の進め方等を計画に記載し、計画期間中に該当者等と協議を進めていく形になる。

例えば、通学で利用されている路線バスは、やはり、利用が少なくとも確保しなければならない、などの声をいただきたい。また、高齢者団体、特に、住民の代表の方につきましては、日頃感じていること、会議の中でよく出てくる交通課題などをこの会議でお伝えいただきたい。

ワーキング会議は、市全体をカバーができるように、また、観光や商工振興の部分も含めて、実務者で、話をしていこうと考えている。またそのワーキング会議での議論の内容は、交通会議でも報告する。

委員：

合併（学校統合）のスケジュールと関係するところから、その担当部署との協議、すり合わせは、行

っていくのか。

事務局：

この計画の中で、具体的な路線名の維持や廃止を決定するのは難しい。学校統合の議論も状況が変化していると聞いている。それらは、個別の対応になる。

委員：

ワーキング会議は、大まかに事が決定した後で具体的に検討する路線の案件で設置されるということでしょうか。

事務局：

ワーキング会議は、この公共交通計画の基本的な方針や考え方を中心にまとめる。そのため、幅広い視点が必要である。市域面積も広く、例えば、庄原地域の方々が高野地域のことを全て把握することは難しい。全市的な情報をいただきながら、基本的な考え方の素案、論点をまとめていく。

具体的な路線は、例えば、口和地域の路線を協議する場合は、口和自治振興区の方々と、この会議とは別の場で話をしながら進めていき、お互いに理解した中で交通会議に諮る。

会長：

資料7の2ページ目に挙げられている策定の流れにおいて、それぞれの項目を概ね何月頃行うのか、スケジュールを示していただけるとよいのではないかと。他方、委員が指摘の点と関連するが、②の生活交通路線の利用実態調査、③市民ニーズの調査と記載してある。現在のネットワーク計画を引き継ぐ生活交通の調査を実施すると思われるが、加えて観光など市外から来る方のニーズ調査や観光での利用実態など、この部分にどこまでウエイトを置くのか、それらの記載も必要と思う。

委員：

ワーキング会議とコンサルタント会社の関係について教えていただきたい。

事務局：

市がコンサルタント会社に委託し、アンケート調査や専門的な調査をお願いするというのが一般的である。今回は、この地域公共交通会議が、コンサルタント会社へ事業を委託する形になる。いきなり交通会議で詳細なデータを議論いただいたとしても、大人数であり、様々な立場の方がいるため、非効率であると考えられる。いただいたデータの内容やテーマごとに議論を分けて、ワーキング会議で整理し、その上で、交通会議に提出する。2段階での整理をする。委員の方々に頻繁にお集まりいただくことは難しく、実務者で自分たちの経験も踏まえながら議論をするという形である。その中で専門的な情報や経験のあるコンサルタント会社に委託するものである。

会長：

ワーキング会議や交通会議で議論するためのデータ収集、アンケート調査、課題整理などをコンサルタント会社に委託するものと理解する。

《承認》

全員承認

(4) ワーキング会議の構成について 【資料8】

《質疑・意見交換》

会長：

JRからも委員に入っておられ、交通計画に関してはJRも重要な路線である。JRからのワーキン

グ会議への参加についてはいかがか。

事務局：

この構成案は基本メンバーということで考えていただきたい。必要に応じて追加等は検討する。

会長：

ワーキング会議のメンバーについては、必要に応じて追加などの対応が可能ということで進めていきたい。

《承認》

全員承認

(5) 令和2年度予算(案)について 【資料9】

《質疑・意見交換》

特になし

《承認》

全員承認

8 その他

会長：

交通計画に取り組むにあたり、神田教授から意見をもらいたい。

神田教授：

この度の計画策定は、様々なことが重なった絶好のタイミングである。庄原市だけの話ではなく、全国的にも活性化法の改正が行われた直後であり、国の公共交通の施策も変わるタイミングでもある。会議途中、世界経済フォーラムという団体がなぜワーキング会議に入っているのか、疑問などを感じておられるかもしれない。過疎地の交通は世界的な課題でもある。そのような状況の中で、日本もフォーカスされている。日本の中で、庄原市がフォーカスされている状態である。よりよい交通計画は様々な議論を通じて策定していくものである。よろしくお願ひしたい。

9 閉会